

令和4年12月26日(月)

第4期第2回東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
資料2

令和4年度 認知症疾患医療センター 前田病院主催

多職種研修会アンケート結果

(アンケート回収:39)

1、参加者

45名(外部39名、前田病院6名)

<内訳>

- ・医師/歯科医師 2名
- ・看護師 4名
- ・ケアマネージャー 15名
- ・相談員 6名
- ・薬剤師 3名
- ・介護職 4名
- ・理学療法士 1名
- ・その他4名(社会福祉士1名/歯科助手1名/栄養士1名/未回答1名)

2、本日の研修会の内容について

- ・大変よかった16名
- ・よかった21名
- ・普通1名
- ・未回答1名

【参加者アンケート一部抜粋】

- ・直接、顔を合わせて話あう機会はまだ少ないので、本日の研修は貴重な場だった。
 - ・グループワークや発表を通じて、これまでの支援の振り返り、行方不明リスクのある方への対応方法など、色々な意見を聞いてよかった。
 - ・認知症ケアに対して、職種それぞれの視点があり、それを共有ができた。地域連携のために大切な研修会だった。
 - ・徘徊に対してできることを教えて頂いた。徘徊のある患者の家族に対して、適切なアドバイスができるように様々なケースが聞いてよかった。
- ⇒コロナ禍であったが、集合形式でグループワークをし、多職種が顔を合わせ、意見交換・共有をできたことへの満足感が高かった。またテーマに関しても、日常の支援のなかで対峙するものであり、関心やグループワークの熱量も高かった。

その一方で、

- ・反省したケースだけではなく、うまく対応できたケースも聞けたらよかった。
 - ・配布資料やスライド(あとから配布ではなく、初めから配布してほしい、字が小さい)
 - ・行方不明のリスクのある方への対応は、支援者だけでなく、地域のかたへの啓発や地域全体で取組が必要ではないか。
- とのご意見も頂いた。

令和4年12月26日(月)

第4期第2回東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
資料2

3、次回、取り上げてほしい研修テーマ

- 多職種連携の際、情報提供のポイント
- 受診困難
- 対応方法（スピーチロック・
- BPSD
- 若年
- 認知症の治療（内服薬）
- 介護のしかた（最新の介護技術/ヒヤリハットの活用）
- 家族支援